

環境マネジメントシステム -Environmental Management System-

国際規格ISO14001に基づく環境マネジメントシステム（EMS）を構築・運用し、継続的改善に努めることで、環境リスクの低減および環境パフォーマンスの向上を図っています。

富士通フロンテックグループの環境マネジメントシステム

当社グループでは、早くから企業が環境問題に取り組む重要性を主要な責任の一つと捉え1998年にISO14001の認証を取得しました。その後2005年に、富士通グループの「グループガバナンスの一層の強化の実現」などを目的とした「富士通グループ統合認証」への切り替えを行い、現在『環境にやさしい企業活動』の基本理念の下、環境活動を推進しています。

環境経営推進体制

当社グループの環境経営に関する総合的な議論を行うため、当社の業務執行にかかわる取締役および経営執行役で構成された経営会議承認の下、社長を委員長とした「環境経営委員会」を設けています。同委員会では、環境経営の高度化やガバナンスの強化に向けて、中長期的な課題の検討や方針の策定、気候変動による事業リスク・機会の共有や対応方法の検討などを実施しています。（「環境経営委員会」は、当社コーポレート・ガバナンス体制における各種社内委員会の一つとしての位置づけになります。）

また、各拠点には拠点統括責任者（役員クラス）を委員長とした「環境管理委員会」を設け、拠点の環境活動全般を議論し、拠点レベルの課題の検討や方針の策定、リスク・機会の共有や対応方法の検討などを行っています。

富士通フロンテックグループ環境経営推進体制（2020年9月現在）



※ 国内・海外拠点の正式名称
 熊谷SSC：熊谷サービスソリューションセンター
 大宮SC：大宮ソリューションセンター
 FJFS：株式会社富士通フロンテックシステムズ
 TEL：トータルゼータエンジニアリング株式会社

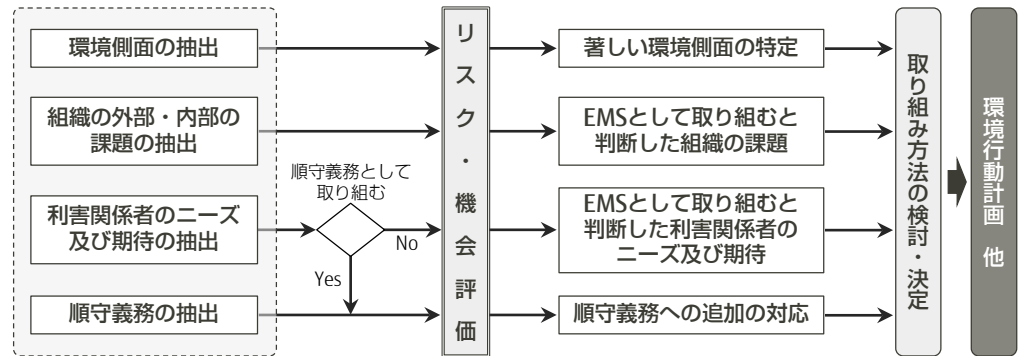
FDTF：Fujitsu Die-tech Corporation of the Philippines
 FFNA：Fujitsu Frontech North America, Inc.
 FFTS：富士通先端科技(上海)有限公司

※ 独自認証のグループ会社に対して、定期的に運用状況を確認し、「環境経営委員会」で報告。

環境リスク・機会の特定、評価および対応方法

当社グループでは、ISO14001に基づく環境マネジメントシステム（EMS）を構築しその運用を通じて、重要な環境リスク・機会を特定、評価し、それら環境課題への対応方法を決定取り組んでいます。また、同規格の2015年版の概念に基づき、「組織の外部・内部の課題」や「利害関係者のニーズ及び期待」のように「環境」という枠組みを超えた、事業プロセスに影響を及ぼすリスク・機会も特定する仕組みを構築しています。

【リスク・機会の特定、評価プロセス】



【EMSとして取り組むと判断したリスク・機会（2020年度）】

EMSとして取り組むと判断したリスク・機会		「環境行動計画」における項目
■ 著しい環境側面		
1 電力の使用	リスク	「気候変動」
2 廃棄物の排出	リスク	「資源循環」
■ 組織の課題（外部）		
1 エネルギー調達コストの上昇	リスク	「気候変動」
■ 組織の課題（内部）		
1 SDGsへの貢献及びビジネスチャンスの獲得	機会	「資源循環」、「SDGs」
■ 利害関係者のニーズ及び期待		
1 ESG（環境・社会・ガバナンス）	機会	「SDGs」
2 中長期環境ビジョン【FUJITSU Climate and Energy Vision】	機会	「気候変動」
3 外部評価、イニシアティブ等（CDP、SBT、RE100 他）	機会	「気候変動」、「資源循環」 他